大王杉

大王杉は、推定樹齢約 3,000 年のスギである。高さ 24.7 メートル、幹回り 11.1 メートルで、縄文杉が発見されるまでは最古・最大のスギとして知られていた。

大王杉の内部はほとんど腐敗してしまっており、幹は空洞になっている。樹木はこのような状態でも生命活動を続けているものの、中央部の年輪の欠如のため研究者が正確な樹齢を割り出すことは困難である。樹齢を算出する一般的な方法として、年輪を数える方法と木の中心部で炭素年代測定を行う方法の 2 つがあるが、大王杉ではどちらの方法も実施不可能である。

大王杉は急斜面上で下向きに傾き始めており、研究者たちは強い台風が来ても大王杉が直立を保ち続けることができるのか懸念している。このため、当初は大王杉の下を通っていたトレイルは、通行者の安全を考慮して杉の上を通るように変更された。

大王杉からは、大株歩道が西の縄文杉方面へ（0.8 キロ、約 30 分）続いており、さらにそこから宮之浦歩道と宮之浦岳（6.4 キロ、約 6 時間）の方面へと続く。ここから東に進むとウィルソンス株（1.1km、約 50 分）、そして荒川登山口（9.8km、約 4 時間）に至る。

大王杉の近くには常設の携帯トイレブースがあり、3 月から 11 月までは季節限定のテント式携帯トイレブースも設置される。最も近い汲み取り式トイレは東大株歩道入口（1.7km、約 1 時間 15 分）付近にある。